



編集・発行

国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進室 〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24
TEL 099-285-3012 E-mail : gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp http://atsuhime.kuas.kagoshima-u.ac.jp/

■入試時における 学内一時託児サービスを実施

乳幼児や学童を持つ教職員（非常勤職員を含む）が、大学入試センター試験時に試験監督等に從事する際の保育支援として、大学が契約した保育スタッフ派遣サービス事業者による学内一時託児サービスを1月14日・15日に実施しました。

連合農学研究科棟の会議室を使用して、教職員3人の子ども4人を預かりました。子どもたちは、保育士や学生ボランティアらと絵を描いたり、絵本の読み聞かせをしてもらったりしていました。利用した職員からは「安心して業務に従事できた」「子どもがとても楽しんでいたのでまた利用したい」と好評でした。



■男女共同参画トップセミナーを開催

2月9日、(独)科学技術振興機構科学技術システム改革事業プログラム主管の山村康子氏を講師として男女共同参画トップセミナーを開催し、吉田学長をはじめ、理事、部局長等78名が参加しました。本セミナーは科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の一環として開催したものです。

山村氏は、日本の女性研究者の現状、国の女性研究者支援・育成に係る政策等について解説したほか、他大学におけるポジティブ・アクションの取組事例について紹介した上で、「本事業支援期間内に大学全体で女性研究者増に向けたシステムの基礎作りに取り組んでいただきたい」と述べました。

また、引き続き行われた質疑応答において、地域性に起因する女性研究者の公募が少ない現状の打開策や女性研究者支援の在り方等について質問があり、山村氏は、分野を限定しない公募及び学会等のネットワークの積極的な活用や、女性を含む人材の多様性が大学の活性化にいかにも有用かを浸透させることの重要性について指摘しました。



● muse カフェを開催 ● ～医・歯・保健学分野の女性研究者等がランチミーティング～

12月16日、医・歯・保健学分野の女性研究者や女子大学院生など15人が参加して、桜ヶ丘キャンパスにおいて「museカフェ」を開催しました。

カフェでは、今年度スタートした研究支援員制度に関して、配置されている教員から、その効果と研究支援員の人材バンクの創設の必要性の指摘や「さくらっ子保育園」利用者のための駐車スペースの整備、女性休憩室や授乳室等の環境整備のほか、子の長期休暇中の学童保育支援等について提案がありました。また、今後女性研究者支援を推進していく上で、女性研究者自身の意識改革の重要性について確認しました。



保育所整備充実等に関するニーズ調査結果概要

平成22年度に実施した「男女共同参画推進に関する意識調査」等において、保育所をはじめとする保育支援の改善充実など、多様な支援を求める声が大きくなっていることを受けて、今後の企画立案の参考とするため、現在小学生以下の子を持つ方などを対象にニーズ調査を実施しました。

今後、本調査の結果を踏まえ、保育所の整備充実をはじめとする保育支援について、男女共同参画推進室を中心に検討していくこととしています。

主な結果について以下に紹介します。

実施期間 平成 23 年 10 月 7 日～ 11 月 9 日

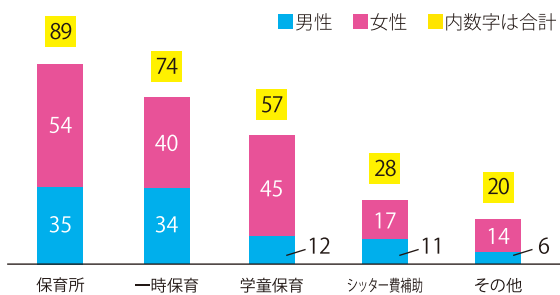
回答状況 計 156 人(男 68、女 88)

[職種等別] 教員 62、事務・技術系職員 69、医療技術系職員 10、
大学院生 10、その他 5

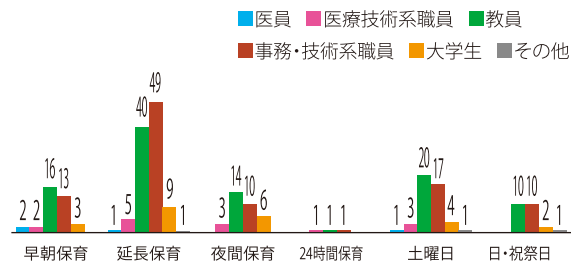


さくらっ子保育園(桜ヶ丘キャンパス)

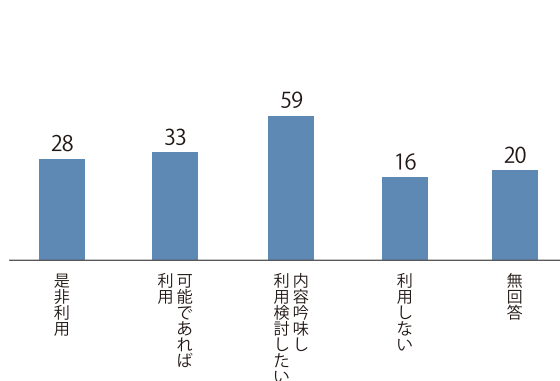
大学に強く望む保育支援(複数回答可)



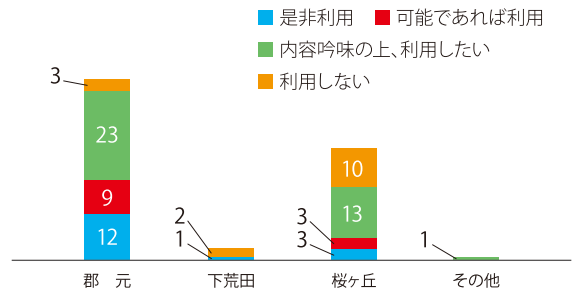
郡元地区に保育所が設置された場合に希望する保育日・時間[通常保育以外](複数回答可)



郡元地区に保育所が設置された場合の利用希望



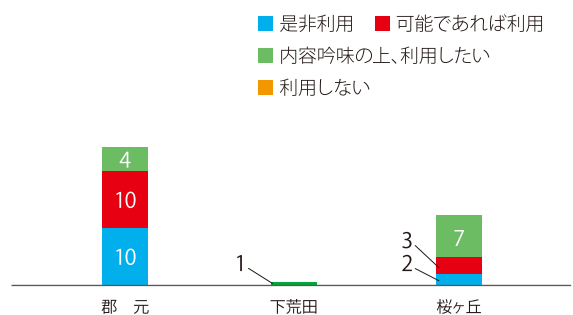
0-6歳児(保育所対象児)を有する教職員【地区別】



今回実施した調査から、実際に郡元地区に保育所を設置した場合に利用する可能性がある人が120人(回答者の76.4%)おり、そのうち「是非利用したい」と回答した人は28人いました。

このほかにも通常保育以外の保育サービスや学童保育等に関するニーズも調査しておりますので、詳細は男女共同参画推進室ホームページから調査報告書をご覧ください。

将来子を持つ予定又は希望の教職員の利用希望状況【地区別】



鹿大の女性研究者に Close up!

鹿児島大学で研究している女性研究者を紹介합니다。



小原 恭子 教授 (農学部附属越境性動物疾病制御研究センター)

Profile

1988年4月 東燃総合研究所 研究員
1989年6月 農学博士取得(東京大学大学院農学生命研究科)
1990年4月 東京都臨床医学総合研究所 研究員
2000年9月 東京大学医科学研究所 講師
2005年10月 熊本大学大学院生命科学研究部 特任教授
2011年10月 現職

○生命に対する素朴な疑問が起点

研究者を目指すきっかけは、小学3年生の頃の「生命って何だろう」という疑問でした。その後大学で研究を進めていくうちに、生命科学の奥の深さを学び、次第に感染症などの病原体となるウイルスに関心を抱くようになりました。

○C型肝炎ウイルス制圧に向けた研究に邁進

これまで牛疫のワクチン開発やC型肝炎ウイルス(HCV)の遺伝子型を血清学的に分類する方法の確立による治療方針の決定や効果予測を可能とする特性の解明のほか、HCVゲノムの機能解析等によりウイルスゲノムでの蛋白質合成開始メカニズムを初めて明らかにしました。また、HCVの病原性発現機序の解析により日本ウイルス学会杉浦奨励賞(平成12年度)を受賞しました。さらに、HCV腫瘍原性の研究や遺伝子改変マウスを用いた世界初のBリンパ腫モデルの樹立を行いました。

○越境性動物疾病制御研究センターの役割

センターは、畜産王国鹿児島を脅かすリスクを最小限にとどめる防疫研究拠点として、鳥インフルエンザや口蹄疫など越境性動物疾病に係る病原体の侵入予測、発生時の早期診断と拡散防止策に関する研究を行っています。私は、現在鳥やブタのインフルエンザ等の診断システム確立に関する研究のほか、ウイルスの病原性の解明や複製機構解析の研究に向けた準備を進めています。

○キャリア形成に寄与したもの

これまで、素晴らしい先生方に出会い、恵まれた研究環境の下で、自分なりに研究を深化していくことができました。特にカナダ留学では、最新の研究情報が迅速に得られ、多様な研究者とのネットワーク構築など、研究の幅を広げる契機となりました。

研究者の夫や周囲の理解や協力も大きかったですね。

またキャリアを継続する上でタフさは不可欠。昼夜関係なく実験に没頭することもあるので健康には常に留意してきました。余暇にはスポーツしたり、気分転換に好きな音楽を聴いたりしてメリハリのある生活を心がけています。

○これから研究者を目指す方へのメッセージ

何を目指すにしても、興味をひかれるものを大事にしたいですね。研究活動は解明されていないものを明らかにする作業であり、まさに未開の大陸を開拓していくようなものです。もちろん様々な困難にぶつかることもありますが、周囲のサポートを得ながら、初心を忘れることなく根気強く続けていけば必ず道は開けます。海外など異なる環境で客観的な視野を広げることも必要だと思います。

まずは科学に触れる機会に飛び込んで、科学の世界を1回は覗いてください。



電気泳動による蛋白質の確認作業

■男女共同参画キャラバンを実施 (法文・教育・病院・司法政策・臨床心理)

男女共同参画推進室と各部局等との男女共同参画キャラバンを法文学部、教育学部、医学部・歯学部附属病院、司法政策研究科及び臨床心理学研究科において実施しました。法文学部法政策学科が教員公募書類においてポジティブ・アクションの一つである「能力が同等であれば女性研究者を積極的に採用する」ことを明記するなど、部局における取組が着実に進んでいる一方で、地域性に起因した問題として女性研究者が関東・関西の大学志向であることなどの共通課題が改めて浮き彫りになりました。また、大学病院では、さくらっ子保育園を視察しました。

男女共同参画推進室では、引き続き男女共同参画キャラバン等を通じて、部局等の現状を把握するとともに多様な取組の企画立案に資することとしています。



さくらっ子保育園視察の様子

■育休取得男性職員が 共通教育科目でロールモデル講話

共通教育科目「男女共同参画とキャリアデザイン」において、本学で男性初の育児休業を取得した医学部・歯学部附属病院看護師の花原 洋さんがロールモデル講話を行いました。集中治療部に勤務する花原さんは、2度にわたる育児休業を取得するまでの経緯や育休中の様々な経験のほか、同僚や妻等のアンケート結果を基に、育休を取得したことのメリットや課題について客観的に紹介。受講した学生は、体験に基づいた話に熱心に聞き入っていました。



Information

メンター制度はじまります!

一定の職務経験を有する教員等(メンター)が相談に応じ、助言を行うことによって、女性研究者及び女子大学院生のキャリア継続又はキャリア形成の支援を図るため、平成24年度からメンター制度を創設します。

なお、ロールモデルとなる女性研究者が少ないことや、本制度の創設が科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の一環であることから、女性研究者及び女子大学院生を主対象とし、当面運用していきながら、充実していく予定です。



●相談対応者(メンター)

- ・メンターとして登録している本学教員及び名誉教授
- ・研究支援員制度により研究員を配置されている、又はされたことのある教員等

●相談業務(メンタリング)

研究者としてキャリアを形成していくための課題や、研究とライフイベント(結婚、妊娠、子育て、介護等)との両立などについて、メンターが、自らの経験を踏まえ、部局や専門の枠を超えて継続的に相談に応じるとともに、必要な助言等を行う。

「育児・介護等支援ガイド」を作成しました

教職員のワーク・ライフ・バランス支援を図る一環として、育児や介護支援等に係る制度を紹介するガイドを作成しました。妊娠期、出産、育児期や介護期に利用可能な制度や手続きの仕方等について包括した内容となっています。平成24年度から男女共同参画推進室ホームページからも閲覧できますのでご利用ください。



研究支援員を募集しています!

育児や介護により研究時間の確保が困難な女性研究者の研究活動を支援する研究支援員(大学院生又は大学院課程修了者)を募集しています。お近くに候補となるような大学院生等がいらっしゃる場合、人事課男女共同参画企画係(電話099-285-3012 内線3012)まで随時ご連絡ください。

ベビーシッター費用割引券制度のご案内

教職員に対する保育支援の一環として、(財)こども未来財団のベビーシッター利用券割引制度(1回当たり1,700円の補助)を実施しています。同財団の認定した事業者を利用し、以下の条件等を満たす場合に補助が受けられます。詳細は男女共同参画推進室ホームページをご覧ください。

【利用対象者】

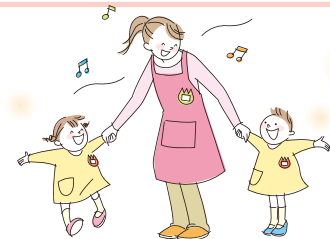
本学に在職する職員で、原則職員の配偶者が就労している場合のほか、病気入院等によりサービスを利用しなければ就労することが困難な状況にあること。

【対象となる子の年齢】

0歳～小学3年生の乳幼児・児童、その他健全育成上の世話を必要とする小学6年生までの児童

【使用条件】

就労のための家庭内における保育(家庭以外は利用不可)・保育所等への送迎



編集後記

昨秋実施した保育施設に関するニーズ調査から、郡元地区における保育所設置のニーズが浮き彫りになり、一方、平成23年度に開始したベビーシッター利用割引券制度や入試時の学内一時託児サービスの実施による一時保育支援も好評だったことから、『仕事をしながら子どもを産み育てる環境作り』がますます求められてきていると感じております。平成24年度4月から男女共同参画推進室は「男女共同参画推進センター」となり、新たにコーディネータが加わることになりました。また、メンター制度も始まります。パワーアップされた「男女共同参画推進センター」の活躍にご期待ください。

(広報・啓発推進部門長 中村)

《お知らせ》

●男女共同参画推進室ホームページの内容を充実します

男女共同参画推進室では、男女共同参画に関する情報や様々な活動報告のほか、学内保育施設や育児・介護等の制度の紹介をホームページで行っています。

来年度から、科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の紹介や、女性研究者支援・育成に関する情報コーナーとして新たに「女性研究者支援」のページを開設します。

<http://atsumi.kuas.kagoshima-u.ac.jp>

●「男女共同参画推進センター」へ改称、「女性研究者支援事業本部」を設置へ

平成24年度4月から、大学の経営・管理運営体制の見直しに伴い、男女共同参画推進室は男女共同参画推進センターになります。また、センターには「女性研究者支援事業本部」を置き、その業務の中核的役割を果たすコーディネータを配置することにより、体制の整備充実を図ります。